



平成26年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成26年2月7日

上場会社名 ヒビノ株式会社

上場取引所 東

コード番号 2469 URL <http://www.hibino.co.jp/>

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 日比野 晃久

問合せ先責任者 (役職名) ヒビノGMC経営企画本部長 (氏名) 大関 靖 TEL 03-3740-4391

四半期報告書提出予定日 平成26年2月13日

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成26年3月期第3四半期の連結業績(平成25年4月1日～平成25年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
26年3月期第3四半期	13,346	21.4	1,428	85.8	1,282	103.7	748	153.0
25年3月期第3四半期	10,989	6.2	768	1.7	629	△5.4	295	24.4

(注) 包括利益 26年3月期第3四半期 840百万円 (188.9%) 25年3月期第3四半期 290百万円 (30.5%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
26年3月期第3四半期	151.87	149.32
25年3月期第3四半期	60.07	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
26年3月期第3四半期	14,484	4,764	32.9
25年3月期	12,828	4,049	31.6

(参考) 自己資本 26年3月期第3四半期 4,764百万円 25年3月期 4,049百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
25年3月期	—	15.00	—	15.00	30.00
26年3月期	—	15.00	—	—	—
26年3月期(予想)	—	—	—	15.00	30.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 平成26年3月期の連結業績予想(平成25年4月1日～平成26年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,000	12.1	1,140	50.8	1,000	73.2	550	113.3	111.44

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 一社 (社名) 、 除外 一社 (社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	26年3月期3Q	5,082,340 株	25年3月期	5,047,840 株
② 期末自己株式数	26年3月期3Q	127,628 株	25年3月期	127,598 株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	26年3月期3Q	4,927,858 株	25年3月期3Q	4,925,226 株

※四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期レビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期連結財務諸表のレビュー手続が実施中です。

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. サマリー情報(注記事項)に関する事項 .....	3
(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 .....	3
(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 .....	3
(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示 .....	3
3. 四半期連結財務諸表 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(重要な後発事象) .....	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府の各種政策による株価上昇、為替の円安基調等により、企業収益の改善、設備投資の持ち直しが見られ、景気回復の裾野は着実に広がってきております。一方で円安に伴う輸入価格の上昇や消費税増税の動き、海外景気の下振れ等、国内景気を押し下げるリスクが存在することから、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況のもと当社グループ(当社及び連結子会社8社)は、中期経営計画「Action 50」の実現に向けた重点施策として、M&A等を活用した事業の補強と拡大に取り組んでおります。「音響」と「映像」、「音楽」、「ライブ」という4つの要素を当社グループの競争力の源泉ととらえ、第1四半期に老舗ライブハウス「ケネディハウス銀座」を運営する株式会社エィティスリーを子会社化したほか、第2四半期に業務用照明機器の販売を行う株式会社ファーストエンジニアリングを連結子会社化し、顧客基盤の強化及び既存事業とのシナジーによる付加価値の向上を図っております。

当第3四半期連結累計期間は、企業の設備投資や販促投資が戻りつつあるなかで、市場環境は全般的に明るさを増してきております。映像製品の開発・製造・販売事業及び音響機器販売事業において大型案件が増加したことや、コンサート・イベント事業がコンサートやモーターショー案件を中心に好調に推移したことから、売上高は前年同四半期を上回りました。利益につきましては、最重要課題であった映像製品の開発・製造・販売事業が黒字転換したことをはじめ、すべての事業が好調に推移したことから、営業利益、経常利益、四半期純利益ともに前年同四半期を大きく上回りました。

これらの結果、売上高13,346百万円(前年同四半期比21.4%増)、営業利益1,428百万円(同85.8%増)、経常利益1,282百万円(同103.7%増)、四半期純利益748百万円(同153.0%増)となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

#### [音響機器販売事業]

音響機器販売事業は、放送局、コンサート音響会社向け大口案件を多数受注したほか、大手自動車メーカーショールームのリニューアルにて音響・映像システム一式を納入するなど着実に大型案件を取り込むことができました。また、市場の活性化が進み、売上の基礎となる流通商品の販売も好調に推移いたしました。利益面では、円安基調の継続により仕入価格が上昇しているため利益率の低下を招いておりますが、売上高の伸長が為替の影響を吸収し、対前年同四半期比で増収増益となりました。

これらの結果、音響機器販売事業の売上高は4,500百万円(前年同四半期比12.4%増)となりました。

#### [映像製品の開発・製造・販売事業]

映像製品の開発・製造・販売事業は、新興国製LEDディスプレイ・システムの台頭による競争激化など予断を許さない状況に変わりはありませんが、顧客企業の設備投資に持ち直しの動きがあり、LEDディスプレイ・システムの需要は回復傾向にあります。第2四半期までの好調な流れを引き継ぎ、当第3四半期は、上海に新規オープンした大型商業施設にLEDディスプレイ・システムを大量納入したほか、新橋駅前の街頭ビジョンの更新案件を獲得するなど大型案件に恵まれ、前年同四半期から大幅な増収となり、営業黒字化を達成いたしました。

これらの結果、映像製品の開発・製造・販売事業の売上高は1,420百万円(前年同四半期比158.2%増)となりました。

#### [コンサート・イベント事業]

コンサート・イベント事業は、コンサート市場を中心に引き続き好調さを堅持しており、人気アーティストの大型コンサートツアーを多数手掛け、グループ全体の業績を牽引いたしました。また、景気回復基調から顧客企業における広告宣伝投資、販促投資にも復調の兆しが見られ、東京モーターショー案件をはじめ、企業イベント案件も堅調に推移いたしました。さらに前連結会計年度より連結子会社となった株式会社ベスコの業績貢献もあり、対前年同四半期比で増収増益となりました。

これらの結果、コンサート・イベント事業の売上高は7,234百万円(前年同四半期比12.4%増)となりました。

#### [その他の事業]

その他の事業の売上高は189百万円(前年同四半期は、売上高はありませんでした)となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末の資産合計は14,484百万円となり、前連結会計年度末と比べて1,656百万円増加しました。これは機械装置及び運搬具、受取手形及び売掛金、リース資産、現金及び預金並びに商品及び製品が増加したことが主な要因であります。

負債合計は9,720百万円となり、前連結会計年度末と比べて941百万円増加しました。これは短期借入金、未払法人税等及びその他流動負債が増加したことが主な要因であります。

純資産合計は4,764百万円となり、前連結会計年度末と比べて714百万円増加しました。これは利益剰余金及び為替換算調整勘定が増加したことが主な要因であります。

## (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

通期の連結業績予想につきましては、当第3四半期連結累計期間の業績が計画を上回って推移していることから、売上高17,000百万円(前連結会計年度比12.1%増)、営業利益1,140百万円(同50.8%増)、経常利益1,000百万円(同73.2%増)、当期純利益550百万円(同113.3%増)と修正しております。

詳細につきましては、本日公表の「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

## 2. サマリー情報(注記事項)に関する事項

## (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動

該当事項はありません。

## (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用

該当事項はありません。

## (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

該当事項はありません。

3. 四半期連結財務諸表  
 (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,442,246	1,688,695
受取手形及び売掛金	3,185,767	3,697,605
商品及び製品	1,371,002	1,565,893
仕掛品	168,688	248,427
原材料及び貯蔵品	207,076	175,291
その他	664,361	730,077
貸倒引当金	△26,830	△38,041
流動資産合計	7,012,313	8,067,949
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	1,257,433	1,277,957
減価償却累計額	△776,631	△809,152
建物及び構築物(純額)	480,801	468,804
機械装置及び運搬具	6,251,316	6,779,303
減価償却累計額	△4,657,794	△4,596,648
機械装置及び運搬具(純額)	1,593,522	2,182,654
工具、器具及び備品	774,293	716,487
減価償却累計額	△620,688	△605,214
工具、器具及び備品(純額)	153,604	111,272
リース資産	2,361,606	2,803,645
減価償却累計額	△1,050,240	△1,325,504
リース資産(純額)	1,311,365	1,478,140
その他	520,057	488,280
有形固定資産合計	4,059,351	4,729,153
無形固定資産		
のれん	94,803	76,385
その他	58,978	51,742
無形固定資産合計	153,782	128,127
投資その他の資産		
その他	1,786,638	1,728,169
貸倒引当金	△183,262	△168,480
投資その他の資産合計	1,603,375	1,559,688
固定資産合計	5,816,509	6,416,969
資産合計	12,828,822	14,484,918

(単位:千円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成25年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	791,188	844,066
短期借入金	1,230,000	1,930,134
1年内返済予定の長期借入金	1,172,126	1,116,490
リース債務	427,405	481,759
未払法人税等	192,382	331,938
賞与引当金	326,549	172,758
その他	796,575	912,086
流動負債合計	4,936,227	5,789,232
固定負債		
長期借入金	1,947,878	1,939,702
リース債務	991,740	1,066,155
退職給付引当金	827,785	849,644
資産除去債務	13,685	13,799
その他	62,329	62,329
固定負債合計	3,843,419	3,931,631
負債合計	8,779,646	9,720,864
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	1,721,487	1,732,527
資本剰余金	2,074,601	2,085,641
利益剰余金	416,828	1,017,608
自己株式	△76,889	△76,911
株主資本合計	4,136,027	4,758,866
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,595	16,982
繰延ヘッジ損益	293	3,485
為替換算調整勘定	△97,740	△15,278
その他の包括利益累計額合計	△86,851	5,188
純資産合計	4,049,176	4,764,054
負債純資産合計	12,828,822	14,484,918

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
売上高	10,989,693	13,346,195
売上原価	7,137,238	8,573,695
売上総利益	3,852,454	4,772,499
販売費及び一般管理費	3,083,953	3,344,465
営業利益	768,500	1,428,034
営業外収益		
受取利息	741	1,291
受取配当金	2,321	3,181
仕入割引	7,578	8,186
その他	13,533	14,704
営業外収益合計	24,174	27,364
営業外費用		
支払利息	87,782	92,189
持分法による投資損失	40,085	50,107
為替差損	24,304	15,728
その他	10,641	14,420
営業外費用合計	162,813	172,445
経常利益	629,861	1,282,953
特別損失		
固定資産売却損	30,063	—
減損損失	—	19,413
代理店契約解約損	19,194	—
特別損失合計	49,258	19,413
税金等調整前四半期純利益	580,603	1,263,540
法人税等	284,767	515,132
少数株主損益調整前四半期純利益	295,835	748,408
四半期純利益	295,835	748,408



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位:千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年12月31日)
少数株主損益調整前四半期純利益	295,835	748,408
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	670	5,888
繰延ヘッジ損益	5,396	3,191
為替換算調整勘定	△10,463	82,461
持分法適用会社に対する持分相当額	△523	498
その他の包括利益合計	△4,919	92,039
四半期包括利益	290,916	840,448
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	290,916	840,448

## (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(重要な後発事象)

(コバレント販売株式会社の株式取得)

当社は、平成26年2月7日開催の取締役会において、コバレント販売株式会社の全株式を取得し子会社化することを決議いたしました。

当社は、平成26年2月7日付でコバレント販売株式会社の株式譲渡契約を締結し、平成26年3月31日付で同社の株式を取得し子会社とする予定であります。取得の概要につきましては、以下のとおりであります。

## (1) 株式取得の目的

音響機器販売事業が取り扱う輸入ブランド商品の販売拡大に向け、コバレント販売株式会社の強固な顧客基盤を活用することでシネマ市場を強化し、一層の収益拡大を目指すためであります。

## (2) 株式取得の相手会社の名称

コバレントマテリアル株式会社

## (3) 買収する会社の名称、事業内容、規模

名称 コバレント販売株式会社

事業内容 映画館、ホールに対する映像・音響装置の販売、システム設計・施工・メンテナンス

規模 (平成25年3月期)

純資産 857百万円

総資産 1,345百万円

## (4) 株式取得の時期

平成26年3月31日

## (5) 取得する株式の数、取得価額及び取得後の持分比率

取得株式数 1,600,000株

取得価額 450百万円

取得後の持分比率 100%